

開催年月日 令和4年6月24日（金）
 質問者 日本共産党 宮川 潤 委員
 答弁者 障がい者支援担当局長 石橋 隆二
 障がい者保健福祉課長 秋田 裕幸

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>三 補聴器助成制度について</p> <p>私ども日本共産党道議団では、現在「補聴器・聞こえのアンケート」というものを実施しております。そこで、補聴器助成制度について質問いたします。</p> <p>（一）道内市町村議会および道内市町村における取組について</p> <p>道内市町村議会において、加齢性難聴に対する補聴器購入費助成を求める意見書等の提出状況についてお示してください。</p> <p>道内市町村における助成を実施、予定または検討している市町村数についても、併せてお示してください。</p> <p>（二）助成の実施内容について</p> <p>全国的に助成を実施しているところが増えてきております。道は現在調査中ということでありましたが、最近では根室市でも助成を行うようになりました。私ども日本共産党道議団では、先般根室市における「生活支援特別給付事業」の調査を行いました。</p> <p>根室市では、補聴器購入のみならず、その修理をはじめ、また、痰吸引器など用具の給付の必要性があると認められる場合、それぞれの限度額の範囲内で給付を行っています。根室市その他道内市町村における助成事業の概要についてお示してください。</p> <p>（三）補聴器を必要とする要望の切実さについて</p> <p>私どもが行っている「補聴器・聞こえのアンケート」実施していると申し上げましたが、回答は今、集計中でありましてけれども、多数の切実な声が寄せられているので、ごく一部を紹介いたします。「聴力が下がると自分の家族も含め人との付き合いがおっくうになり自分にこもる傾向となります。聴力が下がった人も生き生きと暮らせるよう補聴器を使えればと思います。補聴器は高額ですので支援があれば助かると思います」等との意見が寄せられております。</p> <p>大変切実さを感じる声だと思っておりますけれども、どう受け止められますか。</p>	<p>【障がい者保健福祉課長】</p> <p>市町村議会における意見書等の提出状況などがございますが、道内の市町村議会において、補聴器購入費の公的助成を求める意見書が提出されているのは、令和3年8月現在で、伊達市や斜里町など27市町となっております。</p> <p>また、道内市町村における助成状況について、身体障害者手帳の交付対象とならない、65歳以上の高齢者に係る補聴器購入費助成を行っているのは、令和3年5月末現在で、8市町村となっておりますこと、新たに実施している市町村もあると伺っておりますことから、本年5月末現在の状況についても、調査を行っているところでございます。</p> <p>【障がい者保健福祉課長】</p> <p>助成事業の概要についてでございますが、根室市では、既存の福祉制度の対応が困難で、医師の意見書により、補聴器の給付の必要性がある方に対し、基準額の範囲で、市民税課税世帯は購入費用の2分の1以内を、市民税非課税世帯は3分の2以内を助成しております。</p> <p>また、令和3年5月末現在で助成を行っている8市町村の助成対象については、両耳の聴力レベルが30デシベル以上70デシベル未満や、50デシベル以上70デシベル未満の方を対象としている場合、年齢では65歳以上や70歳以上の方を対象としている場合など、それぞれの市町村によって様々でございます。助成額については、各市町村の基準額の範囲で、購入費用の2分の1以内を助成しているのは、4町村となっておりますところでございます。</p> <p>【障がい者保健福祉課長】</p> <p>補聴器を必要とする方の要望についてでございますが、日本耳鼻咽喉科学会によりますと、成人した後難聴になると、孤立しやすくなることや、自分に自信が持てず精神的に不安定になる場合もあるなど、生活の様々な場面に支障を来すことがあることから、補聴器使用は、日常生活の質の向上を図る上で有効なものと言われておまして、道といたしましては、聴力の低下した方が、補聴器を使用することで、障がいのない方と同等の情報を得られるものと認識してございます。</p> <p>また、一般社団法人日本補聴器工業会が平成30年に実施した調査では、難聴度が高いとされている方</p>

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>聞こえに対する高齢者の要望、補聴器が高額であり負担の重さについて、どう認識されていますか。伺います。</p> <p>(四) 補聴器購入費助成の実施について 大変当事者の方に心を寄せていただいた答弁を頂戴したと思います。聞こえない、聞こえにくいということ自体が辛いことですが、コミュニケーションを図りにくくなり孤立に結びつくこと。また、認知能力にも支障を来すことがあると言われていいます。健やかな老後のためにも、補聴器の必要性は高いといえます。しかし、補聴器は精密機械であり、調整も必要なため、大変高価であります。補聴器購入費助成を、道として実施すべきですけれどもいかががお考えですか。</p> <p>【指摘】 今後、全国で実施の動きがますます強まっていくと思われまます。道として前向きに考えていく必要があるということをお指摘いたします。</p>	<p>々が、補聴器を使わない理由を複数回答でまとめておりました、その回答の中で24パーセントの方が、「補聴器を購入する経済的余裕がないため」を選択しておりました、補聴器購入費用の負担も、利用に至らない理由の一つであると認識しているところでございます。</p> <p>【障がい者支援担当局長】 補聴器購入費助成についてでございますが、加齢による難聴の方々につきましては、平成30年度から令和元年度にかけまして、補聴器の使用による認知機能低下の予防効果を検証するための研究が、国立長寿医療研究センターにより実施されまして、一定の相関関係が確認されております。令和2年度からは、難聴と認知症との因果関係に関する研究も進められますことから、こうした動向について注視するとともに、市町村や他都府県の動向を把握するなど適切に対応してまいります。</p>